

まつど未来づくり会議 会議録（要旨）

分科会名：生活環境分科会（第4回）

開催日時：平成21年10月14日（月）13時～19時

開催場所：新館7階会議室、議会棟2階第3委員会室

出席委員：草皆はつ代、郡司吉松、坂本学（分科会副会長）、高村裕、土田茂通、
中川文子、平賀義男（分科会長）、三嶋秀恒、渡邊滋子、戸張武彦、
布施優、遠藤高幸（敬称略、順不同）

欠席委員：橋本たき（敬称略）

事務局：木内博和、錦戸茂尚（政策調整課）

【会議内容】

■ 分科会長挨拶

- ・ いよいよ秋本番になりました。17、18日はふるさと祭りがあるので、寄付金集めをしたり、草むしりをしたり、鉄パイプのやぐらを組んだり、準備が大変ですね。今日が未来づくり会議の大詰めです。目指したい松戸の姿は漠としている。10年スパンでものを見るのは難しい。ここへきて世の中が大きく変わり始めましたから。できるだけ普遍的に、みなさんにわかる宣言文を作ればと思っています。今日も集中討議となりますが、よろしく願いします。

■ 前々回分科会の議事録の取扱いについて確認

- ・ 修正なしとして委員は賛成し、議事録を確定した。

■ 本日のねらい：「市民と行政のそれぞれの役割」と「指標」の検討

- ・ 前回まとめた「目指したい姿」の実現に向けて、市民と行政がそれぞれどんな役割を果たしていったらいいのかを検討する。
- ・ また、そうした役割を遂行していくことで、最終的にどんな状態に達したいのかを「指標」という形で表し、提言していく。

■ 話し合いのルールの確認

⇒全ての意見に価値を置く

⇒人の話をよく聴く

⇒想いや考えは全体で共有する

⇒時間厳守

⇒未来に焦点をあてる

■ 「目指したい姿の宣言文」の内容の確認・修正

(※第3回分科会会議録の別紙1参照)

□ 政策10 (一部、政策11、12を含む)

- ・ 市民意識が前面に出てきている。ハードとソフトの両輪が必要。
- ・ 政策10は、「自助・共助できる体制と諸設備を拡充し実現する」としたらどうか。備蓄など問題がいろいろあると思うが、諸設備を拡充することでさらに安全性が増すと思う。政策11は「さまざまな分野の人々が協力し、機能を拡充することで、より安全な市民生活を守る。」としたらどうか。機能とは、各家庭の火災報知機や、消火設備のことである。政策12は、さらに踏み込んで、「即応した救命ネットワーク」としたい。即応とは、各救急車にネットワークで結ばれた情報端末のディスプレイがあり、すぐに受け入れ病院が決められるようになっていることである。
- ・ 政策だからバランスが大事。
- ・ たしかに、ハードの部分が読み取れない。救急救命ネットワークという事業が既にある。5分以内に除細動をして、心臓マッサージをすると25%は助かる。何台も救急車が出ていると、結果的に到着まで5分を超えてしまうこともある。そのため、消防は、市民の皆さまが、救急車が到着する前に心臓マッサージやAEDで除細動することと、救急車が早く行くことと、救急車が一早く病院に運ぶことの連携が救命ネットワークだといっている。ここで、救命ネットワークという定義としてぶれてしまうと思う。病院情報は救急車の端末で見ることができる。ただし、病院との交渉で、専門医がないので受け入れができないというときがある。その場合は、時間がかかってしまう。交渉しなくてもいけるチームができれば非常に良いと思っている。医師会と消防が組んでいるネットワークがある。その中で、交渉しなくても行けるシステムを構築できれば一番良いと思っているが、ハードルがありなかなか進まない。
- ・ 救急救命について、たらい回しが問題になっている。松戸はどうなのか。
- ・ 全国的な問題であり、松戸でもある。法改正があり、医師会と県と消防が東葛エリアでMCネットワークというものを作っている。この中で、速やかに病院の受け入れができるように解決を図っていくしかない。ただし、医師不足の問題は、早急に解決はできない。国策でやらないと進まないだろう。
- ・ もとをただすと、医師不足に結びつくのか。勤務のローテーションで、当番以外はいないとかあると思うが、運用の部分で相当助かるのではないかと思う。
- ・ 銚子の人に、松戸は良い病院がいっぱいあってうらやましいと言われた。ああ、良いところに住んでいるなと思った。

- ・ 松戸は、病院収容の時間は、全国的には良い。
- ・ 名戸ヶ谷病院は絶対に受け入れを断らないとテレビでやっていた。私たちのマンションでも高齢化が進んできた。せつかく救急車が早く来ても、うちの下に住んでいる人は、30分以上受け入れ先が見つからないことがあった。東葛ネットワークを使った場合に、名戸ヶ谷病院をネットワークに入れられないのか。
- ・ できると思う。かかりつけの病院は優先的に受け入れてくれるので、まずかかりつけを聞くようにしている。ただし、受け入れ態勢が整っていなければ断られることもある。
- ・ 松戸で新しい市立病院ができれば救急体制も整えると広報まつどに載っていたし、宣言文の中でもネットワークを大いに活かしていければ良いと思う。
- ・ この前、草加の消防署の人が一生懸命病院を探していた。救急ネットをもっとできないかというのが我々の願いである。宣言文に取り上げられれば、行政で予算付けをしてほしい。
- ・ 柏でなくて、松戸でも名戸ヶ谷病院のようなところができるよう努力して欲しい。昔は、上野の方へは行っても、柏の方へは行かなかったが、今は何でも柏の方が発展している。
- ・ 政策10の「不安」という言葉は、漠然とした不安と、具体的に市のデータに基づく、説明しなければならぬ不安があると思う。なぜ、「公助」という言葉は入らないのか。
- ・ 私も同感。先ほども話があったが、ハードを拡充できるのは、公助しかない。「自助、共助できる体制と、公助の拡充」としたらどうか。「諸設備」という言葉は、宣言文の中では漠然としすぎているのではないか。
- ・ 市民の目線から見たから、自助、共助で止まっているのだと思う。
- ・ みなさん不安があるのだから、公助が入らないのはどうかと思う。
- ・ 自助・共助・公助は3つでワンセット。
- ・ 不安を減らすということになると、安全、安心という言葉を入れる必要がある。安心できる体制を表すため、自助・共助・公助と入れるか事務局で再検討した方が良い。
- ・ 文章がきれいで、緊迫感がない。もう少し緊迫感を入れた方が良い。
- ・ 政策10、11、12はみなさん、言葉を入れた方が良いということによりよいでしょうか。
- ・ 事務局が持ち帰るのではなく、必要なキーワードをここで決めてしまった方が良いのではないか。
- ・ 質問ですが、「災害」は一般災害だけの表現のように思う。大災害が入って

いないのではないか。

- ・ 大規模地震災害も政策10の中に入っています。ただ、表現としては足りないかもしれない。
- ・ 防災意識だけで、大規模災害は防げない。
- ・ 災害は防げない。それが起きたときの気持ちを持っていることが大事。これだけ準備したから安心だというように。
- ・ 「災害に強く、命を大切にす社会」と言われてもイメージが浮かばない。
- ・ 助け合うという意味合いではないか。
- ・ 言葉を組み合わせて作っているので、組み合わせると印象が違ってしまう。
- ・ 自助・共助・公助は阪神大震災が起きたときに、すごく広がった言葉。これがあれば気持ちの面でも、強く臨めるのではないか。地震が起きたとき何をするか、周りとうどう協力するか考えておくのが大事。公助は3日くらいかかる。
- ・ 私もこういう言葉は好きではない。非常にわかりにくいから。自助のためには、一人ひとりをよく知って、組織づくりをする必要がある。これが大変である。公助は、ちゃんとやってくれるんだろうなと思っただけのこと。自分の命は自分で守るということを、わかる言葉で表現すれば良い。しかし、自助、共助、公助が一般化した言葉だから、キーワードとして入れるのが良いだろう。「命を大切に」は、枕詞であり、人命優先と言いたいのだろう。
- ・ 「社会に向けて」が良くわからなかった。たぶん、「命を大切にす社会を構築するために」だと思う。
- ・ 公助も入れましょう。
- ・ 公助の拡充、つまり市役所の仕事の拡充は、市役所の宣言文としてかっこ悪い。
- ・ 自助・共助・公助はセットの言葉。公助がないと、市は何もしないみたいだ。
- ・ 公助体制を実現というと、今はできていないようだ。
- ・ 「充実」としたらどうか。
- ・ 「拡充」の方がインパクトがある。
- ・ 言葉が硬いような気がする。
- ・ 「さらに進める」とかはどうか。
- ・ 「推進する」より良い。
- ・ 「さらに推進する」ではないか。
- ・ ちょっと硬くなる。
- ・ 宣言文だから硬くて良いのではないか。
- ・ 「さらに」はいらない。
- ・ 市民の目線で政策の名前を考えているので、「さらに進める」でもなじむと

思う。

- 皆さんが合意できないかもしれませんが、宣言ということを考え、「推進する」にさせてください。
- 「体制」を推進するのか。
- 「体制づくり」を推進するではないか。
- 体制がないとどうしようもないのだから、体制づくりでしょう。
- 今も、自助、共助、公助の枠があるわけだから、それにも増して体制をもっと強化することを推進するので、「自助、共助、公助を推進する」で良いのではないか。
- 自助・共助は、できてなかったらこの先進まない。公助は、これから先あまり期待できない。公助に頼り過ぎると、圧迫することになり、何もかも失っていくことになるのが世の中の流れ。みんな、国縣市にやって欲しいと思っているが無理である。これからは、自助・共助を頑張る時代。最後に公助が出てくる。
- 市民に向けたPRだから、わかるように「体制を推進する」とした方が良い。
- 目指したい姿は10年後。「自助、共助、公助の体制を推進する」と言うのは、現在の姿であるような気がする。
- 言葉の順番を入れ替えると良いのではないか。「防災意識を高めることを通して、自助・共助・公助の体制を推進することで、災害に強く、命を大切にする社会を実現する。」としたらどうか。
- まず、具体的なものがきて、最後に目指したい姿をもってくる方が良い。
- 宣言文は、「防災意識を高めることを通して、自助・共助・公助の体制を推進することで、災害に強く、命を大切にする社会を実現する。」に決定。

□ 政策11

- 政策11も10に倣うと目的が変である。
- 「行政、市民、近所、様々な分野の人々が協力し、機能を拡充することで、火災等による被害が少ない、安全・安心なまちを実現する。」などとしたらどうか。
- 「近所」を「地域」に置き換えられないですか。こだわっている方いますか。許されるなら置き換えたい。
- その方がスマートだね。
- 「行政、市民、近所」ときて、「機能を充実」というと、市民の機能は何ということになるので、「それぞれの持っている力を持ち寄ることで」などと言った方が良いのではないか。
- 機能は、ハードのことを考えている。消火栓とか、火災報知機など物で解決

しようと考えた。心だけではできないこともある。

- ・ 「設備」に置き換えたかどうか。
- ・ 「設備を拡充」は、行政も市民もやることを想定している。
- ・ 「被害がなく」と言い切って良いのか。「被害が少なく」くらいの方が良いのではないか。
- ・ 高い目標を立てるということで、「被害がなく」で良い。
- ・ 宣言文は、「行政、市民、地域や様々な分野の人々が協力し、設備を拡充することで、火災等による被害がなく、安全・安心なまちを実現する。」に決定。

□ 政策 1 2

- ・ 政策 1 2 も 1 0、1 1 と同じトーンにした方が良い。
- ・ 「拠点病院の充実と救命情報・知識を通して、即応した救命ネットワークを構築することで、多くの市民の生命を守る。」となるが、どうですか。
- ・ 「救命情報・知識を通して」の主体が何だかわからない。
- ・ 拠点病院はどこなのか。
- ・ MC ネットワークでは、松戸は市立病院、柏は慈恵医大。新東京病院も救急を受け入れている。
- ・ 地域の大きな病院が拠点病院ではないのか。
- ・ 拠点病院はそういう意味ではない。
- ・ 拠点病院を市立病院に限ると、たらいまわしの心配が出てくる。
- ・ 拠点病院があれば、下の病院もできて、ネットワークができる。
- ・ これを実現するには、市が動くことになる。「拠点病院など」とすると、他の病院にも補助金をくれるのかという話になる。
- ・ 拠点病院というが、救急の場合に必ずしも拠点病院に行くわけではない。受け入れられないことがある。
- ・ 受け入れのための助成金を出して、民間にも受け入れてもらうことを考えているのか。
- ・ 考えていない。医師の問題である。
- ・ 市立病院が新しくなるが、救急の部分はどうするのか。話し合っているのか。
- ・ 今の状態を引き継ぐことになると思う。
- ・ 1 0 年後、採算が合わなければ、救急がなくなることもあるのか。
- ・ 独立採算なので、利益の出ないものはやめていくのか。
- ・ それはたぶんないと思う。それなら、民間にすべて任せているだろう。公立だからできることがある。市がいくらお金を出しても、市民の生命を守るのが市の立場である。切り捨てということはないと思う。

- 公立だからできることがある。市民の命を守るために、お金を出すと思う。
- 拠点病院の言葉の定義をここでやらなくても、私たちが決めれば良いのではないか。
- 「拠点病院」ではなく「救急医療機関」とした方が、市立病院だけでなく、広い意味でとれて良いのではないか。
- 現在はシステムが整備されていないために、搬送先が決まらないのか。
- システム上での搬送先の病院情報は、救急隊が見ることができる。ただし、病院との交渉の段階になって、専門医がいないと断られる。
- 病院のハード面については、他の分科会で担当している。この分科会では、搬送するまでのつなぎの部分が担当である。
- 「拠点病院の充実」を削ったらどうか。病院のことまではこの分科会では触れない方が良いのではないか。
- 救急隊が病院に引き継ぐまでは、消防の役割としてある。
- 民間病院のことを言うのは無理があるのでは。
- 拠点病院でなく、市立病院としたらどうか。
- 受け入れのシステムまでを、この分科会で提言しなければと思う。
- 市民から言うと、市立でも民間でも受け入れてほしい。救命医療機関の充実が目標である。
- 「救急医療機関の受け入れ体制の充実」としたらどうか。
- 「救命情報・知識」の部分は必要なのか。なまじ情報をきいてもわからない。
- 先ほど話に出たが、5分以内に応急手当をすれば助かる。市民がAEDを使って助けるためにも、必要ではないか。
- 市民の役割が入るとなると、あつた方が良いということですかね。
- 「救命情報・知識を通して」という言葉がわからない。
- 「市民の救急救命の知識を向上させ」としたらどうか。
- 「救命情報」だと一般的、「救命処置」にした方がよいのではないか。
- AED、心臓マッサージができるようになって欲しいのだから。
- 「情報」にとどめた方が良いのではないか。「処置」はできることと、できないことがある。
- 私たちができることは、人工呼吸、心臓マッサージ、AED、きり傷、擦り傷の処置等である。
- 宣言文は、「救急医療機関の受け入れ体制の充実と、市民の救命情報、知識を向上させ、即応した救命ネットワークを構築することで、多くの市民の生命を守る。」に決定。

※終了予定時刻を超過する可能性が高くなったため、日を改めるか、このまま

延長するかどうか、事務局が委員に確認したところ、延長することになった。

□ 政策 1 3

- ・ 「低炭素社会を実現する」は無理。「低炭素社会の基盤を作る」くらい。行政が入っていない。市民だけやれということになっているのは問題である。新エネルギーの活用、導入を一層深めて、省エネルギーを図る。私が考えた文章は、「行政や市民一人ひとりは、日常生活における省エネルギーを加速させるとともに、新エネルギー導入に一層努めて、低炭素社会の基盤を作ることによって、地球温暖化防止を推進する。」です。
- ・ 今の人が贅沢をするだけでなく、将来の子どもたちに負の遺産を残さない、持続可能な社会づくりが大事。また、循環型地域社会の構築も重要なテーマになっている。
- ・ 賛成だが、CO₂を出さない観点だけで、カーボンニュートラルのために、木を植えるとかということは盛り込まなくても良いですか。
- ・ 「低炭素社会」の中に入っている。
- ・ 地球温暖化を防止することはできないと考えている。
- ・ 実態からすると、「緩和する」という表現が一番良い。
- ・ 市民には、事業者も入る。
- ・ 宣言文は、「行政・市民一人ひとりは、日常生活における省エネルギーを加速させ、新エネルギー導入に努めて、低炭素社会の基盤を作ることで、地球温暖化防止を推進する。」に決定。

□ 政策 1 4

- ・ 「自らの責任で」が引かかる。それだけで良いのか。
- ・ 「地域と自らの責任で」ではどうか。
- ・ 私は「自らの責任で」のままで良いと思います。責任転嫁をする傾向がありますから。
- ・ 「自らの責任で」が、目にぱっと入る。インパクトがある。防犯体制を良くすることをまずやって、暴力など自らの責任で対処できないこともあるから、突き放さないで、「地域社会の見守り」を入れるべきだと思う。
- ・ 「自らの責任でやれ」といっているように見える。
- ・ 「地域の見守りと自らの責任により」
- ・ 宣言文は「犯罪や事故のない安全・安心のまちづくりに向けて、地域の見守りと自らの責任により、お互いに助け合える社会を実現する。」に決定。

□ 政策 1 5

- ・ 「生きものと植物」は一緒の言葉で良いのではないか。
- ・ 私が考えたのは、「生物多様性を守り、生きものと人が共生する貴重な自然環境の保全に向けて、みどりの市民力を推進することで、暮らしが自然と調和するみどりのふるさと松戸を実現する。」です。
- ・ 未来フォーラムで、「人、自然を大切にする心」とあった。「生物多様性」は広い概念であり、特定のことを指してしまう場合が多い。日常、我々が接する庭や公園の木、街路樹が必ずしも生物多様性とは合致しない。難しい言葉であり、いろいろな解釈ができるので、宣言文に使うのはどうなのかなと思う。「生きものと植物を残した環境」は、これから創出した場合には、緑に含まれないのか。こういったものも広い意味で緑に含めたい。そこで、私が考えたのは、「生きものや緑とともに、市民が松戸で暮らすために、みどりの市民力を推進することで、人と自然を大切に思いやりの心を持って、豊かで潤いのある生活を実現する。」です。自然環境を守るだけでなく、我々の生活の中に潤いや安らぎを得るため、生活の中に緑を取り込んで一緒に生活していきたい。
- ・ 豊かで潤いのある生活を私もしたい。
- ・ 生物多様性は、一般の人にはわからない。難しい。
- ・ 生物多様性は、今日の新聞にも載っていた。時代の反映を入れるのなら入れた方が良く思う。
- ・ 「みどりの市民力」がなじまないと思う。
- ・ これは、松戸市の憲章にある言葉。
- ・ 一般的に、全国的にある言葉ではない。松戸市の緑の基本計画に載っている言葉。緑を守る担い手、市民団体を含めたボランティアを指している。行政が作り上げるだけではなく、そういう力が必要。
- ・ 「みどりの市民力」がなくても意味は通じる。
- ・ この言葉は、元々市民から出た言葉。
- ・ 一般の人に何を言っているのか理解してもらうには、高尚な言葉は使わない方が良く。
- ・ 結果的に、2つが言っていることはそう変わらない。表現が違うだけ。
- ・ 私は、「生物多様性を尊重し」と考えていた。少し枕詞として入れたい。そうすることで、10年後古くないものになっている。
- ・ 「生物多様性」という言葉がインパクトがありすぎる。その後の緑と花を守ることとつながらないと思う。
- ・ 教育面では必要だと思うが、宣言文にはどうかと思う。
- ・ 生物多様性という言葉は議事の中でたくさん議論されましたので、ご了承いただくということによろしいでしょうか。

- ・ 宣言文は「生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力を推進することで、人と自然を大切にする思いやりの心をもって、豊かで潤いのある生活を実現する。」に決定。

■ 事務局より「市民と行政それぞれの役割」について説明

- ・ 「市民と行政のそれぞれの役割」とは、目指したい姿の宣言文を実現するために、市民と行政それぞれがどのような役割を担い、どのように関わっていくのかを指針としてまとめたもの。また、市民と行政に期待したい「想い方」「行動（取組み）」などを具体的に示したものとも言える。
- ・ 「市民と行政それぞれの役割」を検討することで、今後市民と行政が目指したい姿に向けて施策を検討したり、サポートを行ったり、協働する際の指針を明らかにする。
- ・ 「市民の役割」については、目指したい姿の実現に向けて、市民の役割として、期待される態度や行動（取組み）にはどのようなものがあるかを検討する。
- ・ 「行政の役割」については、目指したい姿の実現に向けて、行政の役割として、期待される態度や行動（取組み）を検討する。

■ 事務局より、「指標」についての説明

- ・ 「指標」とは、政策ごとに作成した「目指したい姿の宣言文」の達成状態を表すための尺度のことを指す。あるいは、「市民と行政のそれぞれの役割」を推進することで、高めていきたいこととも言える。

■ 事務局より、指標を検討するねらいの説明

- ・ 目指したい姿の達成イメージを指標として表すことで、より明確になる。
- ・ 目指したい姿を実現するために、具体的に何を行っていけば良いかが検討しやすくなる。
- ・ 指標があると、それに照らして、政策がうまくいっているか、いないかが理解でき、進行状況を確認できる。

■ 「市民と行政それぞれの役割」と「指標」を検討するための素材（アイデア）を個人で検討（個人でポストイットに記入する）

- ・ 「目指したい姿の宣言文」を実現するために、市民と行政にどういう意識をもって、どういう行動をして欲しいかを考え「市民の役割」「行政の役割」として検討する。
- ・ それらの「市民の役割」「行政の役割」を果たしていくことで、何が高まっ

ていったらいいのかを考え、それらを「指標」として表す。

- 作成した素材を全体で共有（ポストイットを模造紙に貼る）
- 作成された「市民の役割」と「行政の役割」の素材を眺め、感想や質問などを通じて背景を共有
- 政策13の「市民の役割」「行政の役割」「指標案」の素材に関する感想の共有及びチームとして残すものの決定
 - ・ 市民への周知とは、行政が市民へいろいろな機会に周知して、温暖化防止に取り組むようにする行政の役割があるということである。
 - ・ 「エコライフシート」と「環境家計簿」は同じ意味。
 - ・ クリーン事業とは何ですか。
 - ・ ソーラーパネルの設置などです。
 - ・ 省エネへの努力。新エネルギー導入。意識を高める必要がある。
 - ・ 減CO2担当室にもっと力を持たせる。減CO2に関しては、よその組織にも手を出せるようにしないとなかなか進まない。
 - ・ 行政がやるには、市立小中学校に新エネルギーを導入するのが一番良い。
 - ・ 市民への周知と書いたのは、市民は何をやったら良いかわからない部分があるから。いろんな情報を行政が流していく必要がある。
 - ・ 市が指標にできるのは、ソーラーパネルの助成数。民間のものは調べられない。
 - ・ 実際に、指標をとれるのか。
 - ・ それは、今は考えなくて結構です。近いものがあるか調べます。
 - ・ 今、減CO2担当室が追いかけているのは、地球にやさしい行動宣言登録者数。46万市民の中で約1,000人だそうです。エコライフシートがそのための道具みたいなものです。
- 政策14の「市民の役割」「行政の役割」「指標案」の素材に関する感想の共有及びチームとして残すものの決定
 - ・ この前テレビでやっていたが、犯罪が減らないのは、例えば隅切りをしないなど、地域での協力が良くないところだそうです。
 - ・ 市は市民を見守るとありますが、青パトはどのくらい役に立っているのですか。今、何台あるのですか。
 - ・ 今、6台です。
 - ・ あとは、時間帯をもう少し増やすとかですかね。

- ・ 小学校の低学年と高学年では下校時間が違うから、それぞれの時間帯に巡回するとかです。
- ・ 地域ボランティア等に援助とあるが、防犯指導員にやってもらいたい。手当がなく、持ち出しですから。
- ・ ひったくられる人は、みんなネットをしていませんね。
- ・ 指標はひったくり件数にしたらどうですか。
- ・ 騒音を出して走る車やオートバイを減らす。
- ・ 夜の6号線は、トラックが赤信号を無視している。青で横断歩道をわたるときも気をつけた方がよい。職業運転手が多い。
- ・ ルール違反や暴走などをなくするのは、市ではできない。警察官が立っているのが一番よい。
- ・ 行政の役割は、防犯カメラの設置ですかね。
- ・ 防犯カメラはだいぶ効果があるみたいですね。
- ・ パトロールも昼間が多いが、夜は少ない。肝心の夜に回ってもらいたい。
- ・ 青パトも10時くらいで終わってしまう。
- ・ こども110番の家に実際に子供が避難した件数は指標になりませんか。
- ・ 歩道をすっ飛ばしている自転車がなくて危ない。
- ・ それでぶつかって、女の人同士が取っ組み合いの喧嘩をしていた。おまわりさんも小さくなっていたので、ここの歩道は自転車が通れるのか調べなさいと言った。そうしたら、自転車が通れない歩道だった。そうやって収めたことがありました。
- ・ ただし、60歳以上は、車道に近い方の歩道をゆっくり自転車で通っても良いが、歩いている人がいたら追い抜いてはいけない。
- ・ 道路交通法の中で、危険な場所では、自転車が歩道を通っても良いとなっている。危険かどうかを感じるのは本人なので、明確な基準ではない。
- ・ 本当は、そういったトラブルになったときに、警察官が来る前に、間に入ってくれる人がいると良いんでしょうね。
- ・ そんなタイミング良くないですよ。
- ・ 地域が防犯活動をやるとしたら、防犯用具を貸し出している。だから、貸出数で活動団体数がわかる。
- ・ こども110番は、みんな関心があるが、利用されているかどうか。
- ・ スクールガードをすごく一生懸命やっている。やってない学校はない。
- ・ 防犯カメラは、設置するのは良いが、管理するのが大変。
- ・ 交通事故は、松戸市なのか、例えば小金原地域で出すのか。
- ・ 警察の資料をそのまま使えるでしょう。
- ・ 交番の管内で毎月出ています。

- ・ 事故は、交通事故だけなのか、滑り台から落ちたのも入るのか。
- ・ 警察が入る事故でしょう。
- ・ 交通事故で代表させましょう。
- ・ 珍しいケースは、指標になりにくい。
- ・ 例えば、マンホールに子供が落ちた事故を除いてしまうと、そういった事故への対策がなくなってしまうのではないか。
- ・ その場合には、行政から注意の文章が出るでしょう。
- ・ 代表するものとして、交通事故件数にしましょう。

□ 政策15の「市民の役割」「行政の役割」「指標案」の素材に関する感想の共有及びチームとして残すものの決定

- ・ 行政の役割は松戸市に限定するのですか。例えば、遺産相続で税金を払えないから、木を切り倒して家を建てることを防ぐというのは、市ではできない。
- ・ ここでは、松戸市に限定させてください。
- ・ 協働事業とは、例えばどんなことがありますか。
- ・ 苗を市が提供して、市民が管理し育てることなどです。
- ・ ボランティア講座をやって、そういうグループを作り上げるということもありますし、道具の提供を含めて、里山の活動を支援するということもあります。
- ・ 知り合いに地主がいて、たくさん土地を持っている。市がその土地を借りて市民に菜園として貸していたそうだが、ある日、市から土地を返すと言われた。町内会の人たちが困って、最終的には、自分たちでお金を出し合って借りた。市も緑を残すと言いながら、お金がかかるから助成金はだんだん削っていくのではないか。
- ・ 地主は、固定資産税を払わなければいけないので、借りる人は、お金を払って借りる。たしかに、緑を残して欲しいということもわかるが、細かい手数料を市が払っても、その他の助成は反対。畑で緑はできるが、生垣を作ることもできる。
- ・ 緑を守るのは、畑だけとは限らない。
- ・ それぞれの町会が登録している花畑にも、助成金が付いている。
- ・ 千葉大学などの緑関係の研究機関と連携して、市民の皆さんにいろんな緑関係の情報発信をしていく準備をしている。まだ、実現はしていない。
- ・ 緑の拠点はいくつか考えられている。センター的なものとしては、21世紀の森と広場、あとは、千葉大、戸定邸を考えている。
- ・ 地域環境調査というのが大きくあって、その中で、生き物調査、野鳥の観察、土地利用状況調査が平成19年に出されている。毎年調査ではないようだ

が、その内容が指標になる。

- ・ ボランティア活動団体数は、みどりの市民力を計る指標として必要ではないか。
- 政策10の「市民の役割」「行政の役割」「指標案」の素材に関する感想の共有及びチームとして残すものの決定
- ・ 「自然災害の指標を0にとはうたえないため、発生した場合に自助、共助、公助のデータづくりを0を目標にする。」とは、どういう意味ですか。
 - ・ 災害が起きた場合の協力体制が完璧にできるようにしたいということです。
 - ・ それなら、協力体制ができた件数を指標にできますね。
- 政策11の「市民の役割」「行政の役割」「指標案」の素材に関する感想の共有及びチームとして残すものの決定
- ・ 消火栓を作るのは、県でやっています。市でできるのは、防火水槽を作ることです。大規模地震だと、消火栓の配管は折れたりするので、今は防火水槽の方が重要視されています。
 - ・ 市は専門職を把握しておくべき。例えば、建物の設備屋とか看護師とか医師とかです。できれば専門職の登録をやっておければと思う。私たちのマンションでは、専門職の登録をやっている。
 - ・ 情報は欲しいですね。ただし、プライバシーの問題があります。
 - ・ 法律で定められた消火設備の整備率の数字はあります。
 - ・ 高層住宅は年に1回消防点検がありますが、一般の住宅はどう何ですか。
 - ・ 一般住宅には立ち入る権利がありません。集合住宅はあります。
 - ・ 火災件数はわかりやすい気がしますね。
 - ・ 火災原因を指標としたらどうですか。
- 政策12の「市民の役割」「行政の役割」「指標案」の素材に関する感想の共有及びチームとして残すものの決定
- ・ 待遇を良くするのは、お金の面だけでなく、研究面科目の面もあると思います。
 - ・ 他にも、家族の生活面もあるでしょう。
 - ・ 通勤のしやすさもあるでしょう。
 - ・ 受け入れ拒否件数を指標にしますか。
 - ・ 拒否されたままではないんでしょうね。拒否を何回かされても、結局どこかの病院に行くのですよね。そうすると、拒否件数は0件と数えているかもしれません。

- ・ 受け入れまでの時間を指標にしたらどうですか。
- ・ 救命講習の受講者数は、AEDの使い方の講習とは違うのですか。
- ・ 同じものと、違うものがあります。AEDが普及する前は、応急手当として、止血や心臓マッサージの講習をしていました。今は、AEDが使えるようになったので、それらとAEDを併せた講習になっています。
- ・ AEDを設置している事業所で、AEDの使い方の講習を受けたところを、救急救命ステーションと呼んでいる。その数は把握しています。その数が増えれば、ネットワークが広がっていると考えられます。
- ・ 病院間の受け入れは、普段から協定を結んでいたりしないのか。
- ・ 申し出によって指定することもある。
- ・ 救急車の数は法定で決まっているのですか。
- ・ 人口に応じて決まっています。松戸市は、法定数を満たしています。全部、高規格救急車で、救命士もいます。
- ・ 出動件数は指標になりませんか。
- ・ 松戸市はドクターヘリはあるのですか。
- ・ 市は持っていません。
- ・ 21世紀の森で受け入れはできる。

■ 「目指したい姿の宣言文」「市民と行政のそれぞれの役割」「指標」の3つの枠組みでは表現しきれないが、とても重要で、ぜひ全体に対して提言していきたいものを「強調したい・伝えたい・具体的な提案・メッセージ」として検討

- ・ 先ほど話した中で、緑と花の部分で、「生物多様性」という言葉は、入ってくるのですよね。
- ・ はい、そうですね。

■ 第5回分科会兼第2回目の全体会の確認

- ・ 日時 平成21年11月7日（土）14時～18時
- ・ 場所 商工会館5階ホール
- ・ 目的 各分科会で検討してきた内容を全体に発表し、未来づくり会議の提案とすること。また、発表内容について、他のメンバー、市民、行政職員からのフィードバックを受けて、検討する機会ともすること。

■ 別紙1 地域連携分科会成果品（案）

■ 別紙2 地域連携分科会（第4回）検討経過資料

以上

目指したい姿の宣言文:

防災意識を高めることを通して、自助・共助・公助の体制を推進することで、災害に強く命を大切にする社会を実現する。

市民の役割:

- 地域の防災訓練に参加する。
- 自助—自分たちでも防災意識を高めていく
共助—自治会・町会で訓練をして体得する。
- 災害に対する備蓄をする。
- 家族の連絡方法(171伝言板)を確立しておく。
- 近隣・町会単位で災害時の行動マニュアルを作成する。
- 町会・隣り近所が助け合える仲間作りをする(災害で助け合えるために)。
- 常日頃災害に対する心がまえを持って行動する。
- 地域ネットワークの更なる充実の実現。
- 市民は、自己防衛をし、自助・共助への協力を自ずと出来るようにする。

行政の役割:

- 避難場所の見直し。
- 備蓄機材の見直し・点検。
- 備蓄食料の見直し・点検。
- サバイバル方法を含め、防災情報を発信する。(情報を共有化する)
- 日頃から非常事態に備えてさまざまな準備をする。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 防災訓練への参加団体数
- 自主防災組織率を上げる。
- 自主防災組織の訓練参加率。

政策11:火災等の災害から市民生活を守る

目指したい姿の宣言文:

行政・市民・地域や様々な分野の人々が協力し、設備を拡充することで、火災等による被害がなく、安全・安心なまちを実現する。

市民の役割:

- 必要最低限の消火警報設備を備える。
- 消防訓練に参加する。
- 各々の家庭に於いて、整理整頓をきちんとし、地域協力を常とする。
- 火災報知機の導入。
- 家庭内に防災グッズの充実と消火用具の充実。

行政の役割:

- 消防施設・設備の整備
- 消防職員の確保
- 消防団員の確保
- 出来れば行政は、専門職の把握をしていざという時にそなえる
- 火災報知機の導入促進(情報提供)

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 火災件数。
- 消火器・火災報知機の設置件数。
- 行政の消防施設(消防署)、・設備の整備率。
- 火災原因。

政策12:救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ

目指したい姿の宣言文:

救急医療機関の受け入れ体制の充実と市民の救命情報・知識を向上させ、即応した救命ネットワークを構築することで、多くの市民の生命を守る。

市民の役割:

- 応急手当の知識を養う。(講習・訓練の参加)
- 救命講習を受講する。
- 出来る限り主治医を持ち、地域の取り組む救命講座等に参加し体験を重ねる。
- 救命・救急についての情報を知ること努力する。

行政の役割:

- 救急病院の連携を強め、受入システムを構築する。
- 市民が安心できるよう、医療体制をPRする。(情報の共有)
- 待ち時間のない救急車対応。
- 柏のように救急の場合必ず受け入れを断らない病院を作ってほしい。早急に。
- ネットワークの構築。
- 出来れば東葛地区のネットワークを拡充して(松戸にもいつでも受け入れ)可能な病院を作る。
- 地域病院の大切さと救急医療に対する考え方を市民に充分理解してもらうこと。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 救急搬送までの時間の短さ。
- 救命率。
- 救命講習受講者数。
- 救急救命ステーション数。

政策13:環境にやさしい地域社会をつくる

目指したい姿の宣言文:

行政・市民一人ひとは、日常生活における省エネルギーを加速させ、新エネルギー導入に努めて、低炭素社会の基盤を作る。それにより、地球温暖化防止を推進する。

市民の役割:

- 省エネ機器の積極的導入。
- 減CO2の意識を自分で学ぶことが大切である。
- クリーン事業への理解と新エネルギー等導入を進める。
- エコライフシートの活用・提出
- 環境家計簿を普及する。
- NPO活動に参加する。
- ソーラパネル設置

- 地球温暖化に関心を持つ。
- 家庭・オフィスの電気、ガソリン、ガス、水の削減を実行。
- 宣言登録をする。(市に対して)
- 自ら省エネをデータ化する。削減目標をたてて実行する。
- 市民一人ひとりが温暖化防止に取り組む。
- 省エネ生活の慣習化、未来を背負う子供達への思いを考える事で、静かな危機感を自ずと持ち合わせる。

行政の役割:

- ソーラーパネルの設置・KWの拡大しデータ公開。
- 市民への周知。
- ソーラーパネル、設置助成金の拡充。
- 松戸市として温暖化防止事業に対して、補助事業の積極的に推進援助する。
- 数値目標を明確にして施策を提出。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- エコライフシート実践者の人数。
- 地球に優しい行動宣言登録者数。
- CO2排出量の削減(マイナスパーセント)。
- (新築する場合に(ソーラーパネル)太陽光発電(設備)設置を義務付け、データを取る。)
- ソーラー設置数。
- (市の)助成数。

政策14: 犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる

目指したい姿の宣言文:

犯罪や事故のない安全・安心のまちづくりに向けて、地域の見守りと自らの責任により、お互いに助け合える社会を実現する。

市民の役割:

- 地域、町会のパトロール体制を強化する。
- 交通ルールを守る。
- 自らの責任において、防犯への努力を惜しまない。意識を高める。
- 犯罪や事故を防ぐため地域の中に関心のある人々の話し合いの場を作る。
- 地域パトロール充実と町内パトロールの連携。
- 自分の周囲は自分で守るよう努め、又近所の人達と常にネットワークを作る。
- 先ず、自分の身は自分で守り、可能な限り助け合うことが大切です。
- 高齢者、子供へ自ら手をさし向ける。

行政の役割:

- 街灯の整備・緊急連絡体制の強化。(駆け付け)
- 事件が起きてから行動するのではなく、日頃より見守る。
- 防犯カメラの設置。
- 青パトの拡充。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 防犯活動団体数。
- 犯罪(ひったくり)件数。
- 交通事故件数。

政策15: 緑と花に親しむことができるようにする

目指したい姿の宣言文:

生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力を推進することで、人と自然を大切にする思いやりの心をもって、豊かで潤いのある生活を実現する。

市民の役割:

- 家庭での緑化。地域の美化。
- 一人よがりにならず、全体の環境を考えた生活を実践していく。
- みどりの市民力でボランティア活動。
- 緑の担い手ボランティア活動。
- 地域住民で仲間づくり＝活動。
- 市民と行政の協働事業推進。
- 動・植物を大切にする。人間も仲間であることを忘れてはいけないと思う。
- 緑のカーテンの推進。
- 身近にみどり、自然に親しむよう、子どもたちに心のゆとりを持たせる。
- 空地などを市役所に情報提供するなどして、緑をふやす努力をする。

行政の役割:

- 市全体の緑化推進。
- 市民の緑のカーテン導入推進。
- みどりを守り育てる人々(ボランティア)を支援する。
- 緑を守る条例整備・体制づくり。
- 緑の拠点づくり・情報発信。
- 特別緑地保全地区(指定の拡大)。
- ボランティアの発掘・育成・啓発。
- 情報に基づいて調査し環境を整備していく。
- 緑を増やす、樹木や花で緑化推進。
- 緑を残し、増やす。公園緑地をつくります。
- 緑を育てる人々の輪を広げます。(紹介します。)
- 緑を残す。緑地を保全する。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- ボランティア活動団体数。活動人数の把握。推移の確認。
- 市民ニーズ調査。(緑の保全、身近な緑化)調査内容。
- 緑が増えたと感じる人の数。

目指したい姿の宣言文:

防災意識を高めることを通して、自助・共助・公助の体制を推進することで、災害に強く命を大切にする社会を実現する。

市民の役割:

- 地域の防災訓練に参加する。
- 自助—自分たちでも防災意識を高めていく
共助—自治会・町会で訓練をして体得する。
- 災害に対する備蓄をする。
- 家族の連絡方法(171伝言板)を確立しておく。
- 近隣・町会単位で災害時の行動マニュアルを作成する。
- 町会・隣り近所が助け合える仲間作りをする(災害で助け合えるために)。
- 常日頃災害に対する心がまえを持って行動する。
- 地域ネットワークの更なる充実の実現。
- 市民は、自己防衛をし、自助・共助への協力を自ずと出来るようにする。

行政の役割:

- 避難場所の見直し。
- 備蓄機材の見直し・点検。
- 備蓄食料の見直し・点検。
- サバイバル方法を含め、防災情報を発信する。(情報を共有化する)
- 日頃から非常事態に備えてさまざまな準備をする。
- ・行政は災害情報など迅速に市民に伝達する。
- ・役所の中で関係する部局がオープンに検討できるようにする。
- ・行政の思いを住民に伝える行動。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 防災訓練への参加団体数
- 自主防災組織率を上げる。
- 自主防災組織の訓練参加率。
- ・協力体制ができた件数。
- ・自然災害の指標を0にとはうたえない為、発生した場合に自助・共助・公助のデータづくりを0を目標にする。
- ・市民、行政互いにやれる事はやって結果は問わない。

政策11:火災等の災害から市民生活を守る

目指したい姿の宣言文:

行政・市民・地域や様々な分野の人々が協力し、設備を拡充することで、火災等による被害がなく、安全・安心なまちを実現する。

市民の役割:

- 必要最低限の消火警報設備を備える。
- 消防訓練に参加する。
- 各々の家庭に於いて、整理整頓をきちんとし、地域協力を常とする。
- 火災報知機の導入。
- 家庭内に防災グッズの充実と消火用具の充実。
- ・タコ足配線をなくす。
- ・警察や自治会情報を常に把握しておく。
- ・地域で防災組織を充実させ、隣近所は一緒にいざというとき行動する。

行政の役割:

- 消防施設・設備の整備
- 消防職員の確保
- 消防団員の確保
- 出来れば行政は、専門職の把握をしていざという時にそなえる
- 火災報知機の導入促進(情報提供)
- ・消防団を含めた市民活動への積極的支援とPR(情報共有)
- ・役所として、最低必要な設備の紹介をするなどの対策等。
- ・火災消火器や報知機の取り付けなど一部助成があれば良い。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 火災件数。
- 消火器・火災報知機の設置件数。
- 行政の消防施設(消防署)、・設備の整備率。
- 火災原因。
- ・火災損害額の減少

政策12:救急救命が必要になった市民の生命をつなぐ

目指したい姿の宣言文:

救急医療機関の受け入れ体制の充実と市民の救命情報・知識を向上させ、即応した救命ネットワークを構築することで、多くの市民の生命を守る。

市民の役割:

- 応急手当の知識を養う。(講習・訓練の参加)
- 救命講習を受講する。
- 出来る限り主治医を持ち、地域の取り組む救命講座等に参加し体験を重ねる。
- 救命・救急についての情報を知ること努力する。
- ・日頃からかかりつけのお医者さん(主治医)をもっている。
- ・市民は救急に対して勉強し、必要性を再認識すること。

行政の役割:

- 救急病院の連携を強め、受入システムを構築する。
- 市民が安心できるよう、医療体制をPRする。(情報の共有)
- 待ち時間のない救急車対応。
- 柏のように救急の場合必ず受け入れを断らない病院を作ってほしい。早急に。
- ネットワークの構築。
- 出来れば東葛地区のネットワークを拡充して(松戸にもいつでも受け入れ)可能な病院を作る。
- 地域病院の大切さと救急医療に対する考え方を市民に充分理解してもらうこと。
- ・救急医を多く松戸に来られるように、待遇を考える。
- ・各支所に松戸市の救命情報を市民がわかるように知らせる。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 救急搬送までの時間の短さ。
- 救命率。
- 救命講習受講者数。
- 救急救命ステーション数。

政策13:環境にやさしい地域社会をつくる

目指したい姿の宣言文:

行政・市民一人ひとは、日常生活における省エネルギーを加速させ、新エネルギー導入に努めて、低炭素社会の基盤を作る。それにより、地球温暖化防止を推進する。

市民の役割:

- 省エネ機器の積極的導入。
- 減CO2の意識を自分で学ぶことが大切である。
- クリーン事業への理解と新エネルギー等導入を進める。
- エコライフシートの活用・提出
- 環境家計簿を普及する。
- NPO活動に参加する。
- ソーラパネル設置

- 地球温暖化に関心を持つ。
- 家庭・オフィスの電気、ガソリン、ガス、水の削減を実行。
- 宣言登録をする。(市に対して)
- 自ら省エネをデータ化する。削減目標をたてて実行する。
- 市民一人ひとりが温暖化防止に取り組む。
- 省エネ生活の慣習化、未来を背負う子供達への思いを考える事で、静かな危機感を自ずと持ち合わせる。

行政の役割:

- ソーラーパネルの設置・KWの拡大しデータ公開。
- 市民への周知。
- ソーラーパネル、設置助成金の拡充。
- 松戸市として温暖化防止事業に対して、補助事業の積極的に推進援助する。
- 数値目標を明確にして施策を提出。
- 風力発電、ソーラーなどの新エネルギーを研究し導入していく。

- ・国の方針、県の方針、市の方針の関連性を明確にする。
- ・省エネ普及活動を推進。
- ・改名。
減CO2担当室→減CO2推進室
- ・減CO2推進室は市役所の全組織を横通しする機能。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- エコライフシート実践者の人数。
- 地球に優しい行動宣言登録者数。
- CO2排出量の削減(マイナスパーセント)。
- (新築する場合に(ソーラーパネル)太陽光発電(設備)設置を義務付け、データを取る。)
- ソーラー設置数。
- (市の)助成数。
- ・新エネルギーの開発はいろいろ今、行われていますが、まだ費用がかかる様です。費用のかからない良い物が早く開発されれば良いと思います。

政策14: 犯罪や事故のない安全で快適な地域社会をつくる

目指したい姿の宣言文:

犯罪や事故のない安全・安心のまちづくりに向けて、地域の見守りと自らの責任により、お互いに助け合える社会を実現する。

市民の役割:

- 地域、町会のパトロール体制を強化する。
- 交通ルールを守る。
- 自らの責任において、防犯への努力を惜しまない。意識を高める。
- 犯罪や事故を防ぐため地域の中に関心のある人々の話し合いの場を作る。
- 地域パトロール充実と町内パトロールの連携。
- 自分の周囲は自分で守るよう努め、又近所の人達と常にネットワークを作る。
- 先ず、自分の身は自分で守り、可能な限り助け合うことが大切です。
- 高齢者、子供へ自ら手をさし向ける。

行政の役割:

- 街灯の整備・緊急連絡体制の強化。(駆け付け)
- 事件が起きてから行動するのではなく、日頃より見守る。
- 防犯カメラの設置。
- 青パトの拡充。
- ・犯罪防止力を向上させるため、「街の死角を減らす」努力をする。
- ・地域ボランティア及び有志に対して援助し、パトロールや訪問する。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- 防犯活動団体数。
- 犯罪(ひったくり)件数。
- 交通事故件数。
- ・防犯カメラ設置数。
- ・こども110番件数。
- ・パトロール件数。
- ・ひったくりがだいぶ多くなってきていますが、自分自身バックは車道の反対側の肩にかけるとか、自転車のカゴにネットをはるとか、考えてほしい。

政策15: 緑と花に親しむことができるようにする

目指したい姿の宣言文:

生きものやみどりとともに暮らすために、みどりの市民力を推進することで、人と自然を大切にする思いやりの心をもって、豊かで潤いのある生活を実現する。

市民の役割:

- 家庭での緑化。地域の美化。
- 一人よがりにならず、全体の環境を考えた生活を実践していく。
- みどりの市民力でボランティア活動。
- 緑の担い手ボランティア活動。
- 地域住民で仲間づくり＝活動。
- 市民と行政の協働事業推進。
- 動・植物を大切にする。人間も仲間であることを忘れてはいけないと思う。
- 緑のカーテンの推進。
- 身近にみどり、自然に親しむよう、子どもたちに心のゆとりを持たせる。
- 空地などを市役所に情報提供するなどして、緑をふやす努力をする。

行政の役割:

- 市全体の緑化推進。
- 市民の緑のカーテン導入推進。
- みどりを守り育てる人々(ボランティア)を支援する。
- 緑を守る条例整備・体制づくり。
- 緑の拠点づくり・情報発信。
- 特別緑地保全地区(指定の拡大)。
- ボランティアの発掘・育成・啓発。
- 情報に基づいて調査し環境を整備していく。
- 緑を増やす、樹木や花で緑化推進。
- 緑を残し、増やす。公園緑地をつくります。
- 緑を育てる人々の輪を広げます。(紹介します。)
- 緑を残す。緑地を保全する。
- ・ 緑を守る資金援助。
- ・ 最近外国の動植物が多くなり、日本古来の動植物が少なくなって来ているので対策をしてほしい。

指標案

(何が高まっていたらいいと思いますか?)

- ボランティア活動団体数。活動人数の把握。推移の確認。
- 市民ニーズ調査。(緑の保全、身近な緑化)調査内容。
- 緑が増えたと感じる人の数。
- ・ みどりの活動に係るボランティアの数。
- ・ 地域環境調査・生き物調査・野鳥の観察・土地利用状況調査。調査内容。
- ・ ボランティア活動の状況調査。活動内容。